

桃李の里



福島市立中野小学校

学校だより

発行：校長 益子

朗

平成二十七年年度

卒業証書授与式・修了式

本日3月23日(水)、平成二十七年年度の中野小学校卒業証書授与式を挙行しました。創立百四十二年目の今年卒業したのは7名。卒業証書を手には、卒業を巣立ち、4月からは全員が大鳥中学校に入学します。これまでこぶしっ子のリーダーとして頑張ってくれた6年生諸君、有り難う。



卒業を迎えた6年生

(上列左から)佐藤 旭くん、清野千宙さん、佐藤希羽さん、渡邊巧汰くん、篠木こころさん、山口里香さん、木村香月さん

また同日、修了式も行われ、在校生も全員が一つ上の学年に進級することになりました。



校長式辞(抜粋)

六年生の皆さん、卒業おめでとう。六年前の春、ともに中野小学校の門をくぐった同級生が過ごしてきた6年の月日は、なにもものにも替えられない宝物でしょう。皆さんが小学校にも慣れ、一年生から二年生になろうとした時、あの東日本大震災と福島第一原子力発電所の事故がありました。皆さんはその後の五年間、屋外活動が制限された時期があったり、放射線量を測定しながらの生活を余儀なくされたり、それまでの小学生にない経験をしました。

しかし皆さんは、そんなことを感じさせないほど、素直に健やかに成長してくれました。女子5人、男子2人という学年です。特に今年度は六年生として全校児童を引っ張っていくことができるのか、少しだけ心配もしましたが、そんなことは全くありませんでした。女子5人はお互いをとても大切にしながら素晴らしいチームワークを見せてくれました。また2人の男子はすっかり頼もしくなり、堂々とリーダーを務めてくれました。

気は優しく力持ち。人にとっても親切で、また登校班ではほとんど毎日、先頭に立って下級生を導いてくれた、旭くん。書写の時の背筋を伸ばした凛とした姿勢が素晴らしく、礼儀正しく、そして勉強もスポーツも頑張り屋の千宙ちゃん。ダンスの時はみんなをリードして素晴らしく、パフォーマンスを見せてくれて、また何事もとっても丁寧にする希羽ちゃん。

常に冷静で、全体のことを考えて行動し、スポーツではみんなの目標的な存在なのに決して自慢したりしない巧汰くん。頑張り屋さんであり、かつ、いつも優しい笑顔を見せ、人の面倒をよく見るとても明るく人なつこい笑顔で、何でも頑張り、登校班ではバス通のみんなの先頭に立ってくれた里香ちゃん。陸上大会などで、いつもアスリートとしての豊かな素質を發揮し、カメラを向けるといつも笑顔でリサインしてくれた香月ちゃん。

さて、皆さんは小学校を卒業し、大鳥中学校に進みますが、決して臆することはありません。校長として、皆さんは胸を張って送り出せる、自慢の卒業生です。どうか自信を持ってください。そして力を合わせ、助け合い、競い合いながら、新たな伝統を築き上げていってください。皆さんなら、きっとできます。

これからの皆さんの青春の日々には、時にはつまづいたり、悩んだりすることもあるでしょう。そんな時は、こぶしっ子魂を思い出し、自分を信じ、仲間を信じて、前を向いて歩いてください。そして、やがて大人になったら、自分を育ててくれたこの中野を愛し、中野のためにどうか力を尽くしてください。

皆さんが二十歳を迎える年、中野小学校は創立百五十周年を迎えます。その時はどうか母校に集まってくださるまに目を入れて、祝ってください。お願いします。最後に、卒業生の新天地での活躍を心から信じ、かつ末永く幸多きことをお祈りし、式辞といたします。